



# PSS REPORT 2015

## 第30期 中間事業報告書

平成26年7月1日 &gt;&gt;&gt; 平成26年12月31日

### ▶ トップメッセージ

TOP MESSAGE

株主の皆様におかれましては、平素より当社の事業につきまして格別のご支援とご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。PSSの事業進捗についてご報告させていただきます。



プレジジョン・システム・サイエンス株式会社  
代表取締役社長

日島 秀二

### ■ 事業の成長による社会貢献とは？

バイオ（遺伝子・タンパク質等）診断システムの提供を通じて

事業目的は、「いつでも、どこでも、誰でも」取り扱えるバイオ診断システムの提供を通じて、その診断情報を有効活用する事により、世の中の多くの人々に快適な生活を送って頂く事です。そのため事業領域における強みとして「自動化システム技術」を活かす事、すなわち「バイオテクノロジー」と日本企業の得意とする「ものづくり」を融合して、事業の成長による社会貢献をはたします。

PSSの技術コンセプトは、「シンプル、コンパクト、メンテナンスフリー」の自動化システムです。このコンセプトが、社会に受け入れられたDNA自動抽出装置は、累計1万台以上を世界的な企業を通じてOEM供給しました。現在では研究分野だけではなく、感染症やDNA鑑定等の臨床の現場でも利用されるようになりました。

今後PSSが事業の成長により社会貢献できるのは、この実績と経験を活かした応用展開です。すなわちDNA自動抽出技術（Magtration®）を発展させたバイオ診断システム（全自動化装置と一体化した検査試薬）の製品提供を通じて、世界のより多くの人々に、バイオ診断情報の有効活用による社会貢献に関わる事だと考えています。

### ■ 業績について

第30期（H27/6）第2Q連結累計期間業績について ⇒参照 連結財務ハイライト

第30期第2Q連結業績は、対前年同期比増収減益となりました。主な増収要因として、キアゲングループが行っているエボラ熱検査対応のために、米国FDAの認可承認を受けたDNA自動抽出装置の追加受注があった事とアボットグループ向け検体前処理自動化装置の出荷が順調に推移した事によるものです。それに対して、減収要因として、エリテックグループ向けに上市を控えた全自動遺伝子診断システム「geneLEADXII」のソフトウェア改良により、研究開発費が大きく膨らんだ事による費用増加が主な理由です。

### ■ 中期事業計画の進捗について

⇒参照 トピックス

PSSは、遺伝子診断市場のトレンドを捉え事業フィールドを研究開発分野から臨床診断分野へ移行し、製品構成は装置中心から試薬・消耗品ビジネスへの転換を掲げ、3か年の中期事業計画を策定しています。その計画に対する第30期連結業績見込みは、期初に見込んだ以上の研究開発費等により費用増加要因はあるものの、売上高は当初計画の45億円を大きく上回る50億円を見込んでおり、事業展開は着実に進捗しているものと考えています。

第30期中間期においては、中期事業計画に沿ってアボットグループ向けの製品出荷、エリテックグループと「geneLEADXII」に関してOEM供給契約を締結しました。それと同時に、アボットグループ向けの試薬製造受託への対応並びに、エリテックグループ向けDNA抽出試薬の製造を開始するため大館試薬センターが本格的に稼働開始致しました。

今後は新製品の開発・販売活動と臨床診断許認可（FDA、IVD等）対応を進める事により、株主・投資家の皆様の期待に応える成果を着実にお見せできるよう事業を推進してまいります。

引き続きご支援のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

### PSSの提案する診断システム

- 全自動遺伝子診断装置 geneLEAD I



- PSSの目指すバイオ診断分野

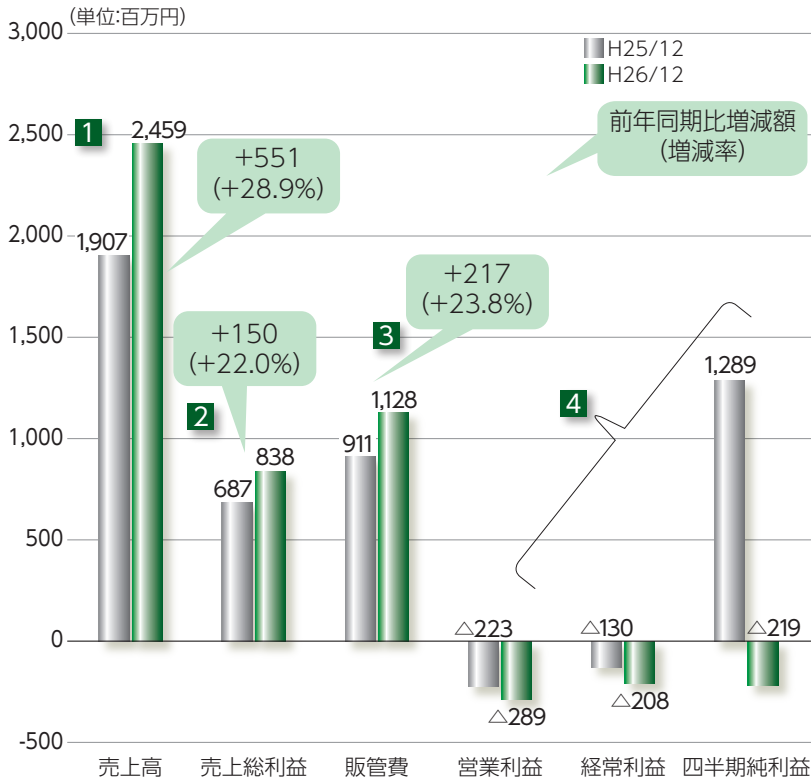
更に詳しい内容のPSSHPコンテンツ

PSSWebサイト>早わかりPSS



第30期(H27/6)第2Q連結累計期間業績について

- 対前年同期比増収減益
- 為替差益の発生（77百万円）により営業外収益が発生
- 前年同期は多額の特別利益（投資有価証券売却益）を計上

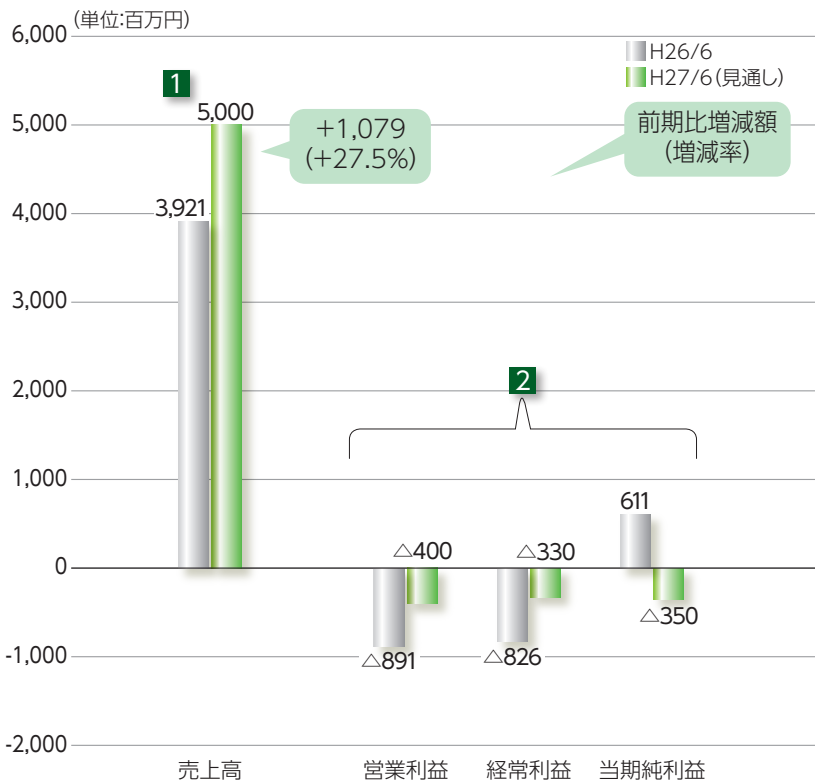


◆第29期 (H26/6) 第2Q業績比

- ▶ **売上高の増加**  
キアゲングループが行っているエボラ熱検査対応のために、DNA自動抽出装置の追加受注があった事とアボットグループ向け検体前処理自動化装置の出荷が順調に推移した事によるものです。
- ▶ **売上総利益の増加**  
上記売上増によるものです。
- ▶ **販管費の増加**  
上市を抑えた全自動遺伝子診断システム (geneLEADxII) のソフトウェア改良により、研究開発費が大きく膨らんだ事による費用増加が主な理由です。
- ▶ **営業外収益 (為替差益) 発生**  
為替差益の発生（77百万円）により経常赤字額は営業赤字に対して縮小しました。  
▶ **前年同期は投資有価証券売却益の実現による特別利益を計上**

第30期 (H27/6) 通期連結業績見直しについて

- 前期比大幅増収の見込みにて、期初の業績見直しを修正（平成27年2月6日）
- 営業利益、経常利益は赤字見直しになるも、赤字幅は前期比大幅の改善見込み
- なお、為替の見直しは、1ドル=115円、1ユーロ=130円にて算定



◆第29期(H26/6)業績比

- ▶ **売上拡大**：①エリテックグループとの提携によるgeneLEADの販売展開（DNA抽出試薬含む）②アボットグループ向けの検体前処理システム（2機種）の開発及び製品販売③キアゲングループ向け米国FDAの認可承認を受けたDNA自動抽出装置の臨床分野用途が拡大
- ▶ **営業及び経常利益は前期比改善見込み**  
売上拡大による大幅増収により、赤字の見直しになるも前期比大幅改善の見込み。前期は多額の特別利益を計上しました。

更に詳しい内容のコンテンツ

PSSWebサイト > 投資家の方へ



## ■ 中期事業計画(平成27年6月期～平成29年6月期)の進捗

### 事業契約締結

- ・PSS、アボットグループ向け検体前処理システムの製品供給契約を締結(平成26年11月14日プレスリリース)
- ・PSS、エリテックグループと全自動遺伝子診断装置「geneLEADXII」に関してOEM供給契約を締結(平成27年1月6日プレスリリース)

### 試薬生産開始

- ・PSS大館試薬センター稼働のお知らせ(平成26年11月14日プレスリリース)

取引顧客の要請に対応するために当初の操業開始予定時期(平成27年2月)を前倒しして、平成26年11月より本格的に試薬製造を開始致しました。今後の稼働予定としては、アボットグループ向けの試薬製造受託への対応並びに、エリテックグループ向けDNA抽出試薬の製造を開始します。

更に詳しい情報は?

- PSSWebサイト(インフォメーション)より
- 12月3日説明会にてご紹介の新製品
- PSS新規事業(新製品)説明会開催される
- 「PSS新規事業(新製品)説明会」動画配信のお知らせ



大館試薬センター作業風景

### 新製品販売

- ・PSS新規事業(新製品)説明会開催される(平成26年12月3日東京)

東京証券会館にて、「PSS新規事業(新製品)説明会」が開催されました。当日は、投資家の皆様や取引先、協力会社等たくさんの方々にご来場頂きました。田島社長のプレゼンテーションに続いて、展示会場では参加者の皆様に装置の動きをご覧いただきながら、各担当者より製品開発の経緯や特長について説明をさせて頂きました。



新製品説明会

- ・アメリカ学会(SLAS2015)出展の報告(平成27年2月7日～11日USA Washington DC)

## ■ 株式関係

- ・当社株式の貸借銘柄選定に関するお知らせ(平成26年12月18日プレスリリース)

今回の貸借銘柄への選定は、当社株式の流動性及び需給関係の向上を一層促進し、売買の活性化と公正な価格形成に資するものと考えております。

選定日	平成26年12月26日(金)
-----	----------------



SLAS2015

## ■ 人事関係

- ・役員人事異動のお知らせ(平成26年10月1日プレスリリース)
- ・役員の変動に関するお知らせ(訃報)(平成26年11月17日プレスリリース)
- ・機構改革及び人事異動のお知らせ(平成26年12月24日プレスリリース)

PSSグループ内の組織体制を見直し、今後の臨床診断市場への事業展開や試薬事業の本格的な立ち上げに備えて、今までより迅速な情報の受発信を国内外に行うため、組織体制を簡素化し、社内意思疎通の迅速化と責任体制の強化を目的として、統括本部制を廃止しました。



故小幡公道氏のお別れ会

- ・前取締役 故小幡公道氏のお別れ会開催の報告(平成27年1月30日 東京)

故小幡公道氏は、PSSのグローバルビジネス(海外事業)展開の礎を築きあげた人物として、会社の歴史の中に刻まれています。PSS役員及び社員一同は、その礎に感謝するとともに、それを活かして世界中の遺伝子診断市場にPSSの自動化システムを提供する事により、早期診断(感染症等)、テーラーメイド医療、警察鑑識等の診断分野でPSS製品が利用されて社会貢献をする事が、故人が果たした貢献に対する最大の恩返しだと考えており、国内外の全社員一丸となって事業展開を行う決意を新たにしました。ここに生前のご厚誼に深く感謝するとともに、謹んでお知らせ申し上げます。



商号：プレジジョン・システム・サイエンス株式会社  
 (英文社名)：Precision System Science Co., Ltd  
 設立年月日：1985年7月17日

役員：代表取締役社長 田島 秀二  
 常務取締役 秋本 淳  
 常務取締役 池田 秀雄  
 取締役 長岡 信夫  
 監査役 高橋 達雄  
 監査役 荻原 大輔  
 監査役 平山 伸之  
 (注) 荻原大輔氏及び平山伸之氏は、会社法第2条第16号で定める社外監査役です。

資本金：2,217百万円

従業員数：184名

(注) 従業員数は就業人員です。(派遣社員、パート等を含まない)

連結子会社：Precision System Science USA, Inc.(米国)  
 Precision System Science Europe GmbH(ドイツ)  
 ユニバーサル・バイオ・リサーチ(株)(千葉県松戸市)  
 PSSキャピタル(株)(千葉県松戸市)  
 バイオコンテンツ投資事業有限責任組合(千葉県松戸市)  
 ジェネティン(株)(千葉県松戸市)  
 エヌピーエス(株)(秋田県大館市)

事業内容：バイオ診断システムインテグレーター  
 遺伝子・タンパク質関連業界における研究施設(ラボ)の自動化や臨床診断分野向けの各種自動化機器の開発及び製造販売、並びにそれら機器に使用される研究用試薬や診断薬、プラスチック消耗品の製造販売等

株式の状況

STOCK INFORMATION

発行可能株式総数 68,480,000株  
 発行済株式の総数 18,252,000株  
 株主数 10,864名

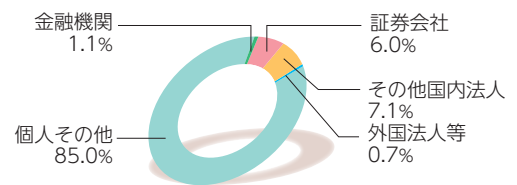
大株主 (平成26/12末現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
田島 秀二	4,549,200	24.9
有限会社ユニテック	1,200,000	6.6
(株)SBI証券	259,900	1.4
松井証券	199,100	1.1
高山 茂	171,500	0.9
高橋 計行	167,200	0.9
日本証券金融(株)	141,600	0.8
小幡 公道	134,400	0.7
佐々木 桂一	133,000	0.7
プレジジョン・システム・サイエンス従業員持株会	120,100	0.7

株主数推移(名)



所有者別保有株式数



株主メモ

SHAREHOLDER INFORMATION

事業年度 毎年7月1日から翌年6月30日まで  
 剰余金の配当基準日 期末配当金 毎年6月30日  
 中間配当金 毎年12月31日  
 定時株主総会 毎年9月  
 単元株式数 100株  
 株主名簿管理人 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部  
 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
 公告方法 電子公告 (http://www.pss.co.jp)  
 ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載します。

お取扱窓口 証券会社等に口座をお持ちの場合、住所変更や買取請求等株主様の各種手続きは、原則として口座を開設されている証券会社等経由で行っていただくこととなりますので、ご利用の証券会社等へご連絡をお願いいたします。  
 証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)、下記のお取扱店にてお取次いたします。  
 なお、支払明細の発行に関するお手続きにつきましては、みずほ信託銀行の下記連絡先にお問合せください。  
 お問合せ先 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部  
 フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)  
 お取扱店 みずほ証券 本店、全国各支店および営業所  
 プラネットフース(みずほ銀行内の店舗)でもお取扱いいたします。  
 みずほ信託銀行 本店および全国各支店  
 ※トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。  
 未払配当金の支払い みずほ信託銀行 本店および全国各支店  
 みずほ銀行 本店および全国各支店  
 (みずほ証券では取次のみとなります。)

PSS IRメール配信のご案内

PSSでは、個人株主・投資家の皆様とのコミュニケーションをはかるため、Eメール配信を行なっております。プレスリリースや会社説明会のご案内等を、オンタイムでお知らせしております。  
 PSSWebサイト>Q&Aお問い合わせ>PSSIRクラブからメールアドレス登録ができますので、是非ご登録下さい。

(将来の見通しに関する注意事項)

本事業報告書では、当社グループの将来についての計画・戦略・業績に関する予測と見通しが含まれています。実際の業績は、述べられている見通しと異なる可能性があることをご承知おき下さい。

